

南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

令和4年11月1日

11月号

さいたま市立南浦和小学校
電話 048-861-3781



好きこそものの上手なれ

校長 小野 圭司

本校の子どもたちに「体育の授業は好きですか」というアンケートを6月頃に実施したところ、「①そう思う」が約76%、「②どちらかといえばそう思う」が約18%、「③どちらかといえば違うと思う」が約4%、「④違うと思う」が約2%でした。①と②を合わせた肯定的な回答が約94%となります。

さて、市内ではどの学校でも「学校課題研究」として各学校で教科などを決めて研究に取り組んでいますが、本校では昨年度から、子どもたちの体力や運動能力等をさらに向上させるために「体育科」の研究を進めています。そのため、本校の子どもたちが体育の授業に対してどう思っているかの実態を前述のアンケートで把握したものです。

本校では学年ごとに体育の授業について話し合い、おおよそ同じような内容で実施している様子が見られます。先日は「体育授業研究会」を実施し、全教職員で「6年 跳び箱運動」の授業を参観しました。その後、本校の研究テーマを「学び合いを通して、生き生きと運動に取り組む児童の育成」としてしていますので、このテーマを達成するための「学び合いの方法は適切か」「児童は生き生きと運動しているか」などについて話し合いました。

皆さんもご存じの通り、「跳び箱運動」というのは「できる」「できない」がはっきりしている運動です。それをいかに意欲的に運動に取り組めるようにするのが教師の腕の見せどころです。本校としては、「ステップ（段階）」や「練習の場」をいくつか準備し、一人ひとりの子が自分の力に合った「ステップ（段階）」や「練習の場」を選んで運動に取り組めるようにし、技をきれいにしたり大きくしたりできるようにしていました。そのおかげで、6年生が何度も何度も技に挑戦する姿を見ることができました。きっと「跳び箱運動が好き」「体育の授業が好き」「運動が好き」などの気持ちがあるからではないかと思えます。運動に限らず、「好き」という気持ちは、何かを続けることの「原動力」になります。

こんな言葉を聞いたことがあります。「始めることや止めることは簡単だが、続けることは難しい」。そして、続けるからこそ、上手になっていくはずです。「好きこそものの上手なれ」の本質は、こういうことではないかと考えます。本校の教職員は、体育の授業に限らず、子どもたちが何かを「好き」になり、それを「続けること」によって、「力を付けられる」よう指導しているところです。

一方、ICTを活用した授業にも取り組んでいるところですが、校長としては教職員が「キャパオーバー」にならないかと心配しているところです。これは、以前は目の前の子どもたちだけを見て指導や支援をしてきたところですが、今はそれに加え、「オンライン授業」を含めたタブレットの操作等にも気を配りながら対応しているためです。私がある教職員に「タブレットは便利でいいでしょう。」と問い掛けると、「例えば、タブレットが上手く動かない子がいれば再起動するよう助言したり、オンラインが上手くつながらない時にはその原因を探ったりと、急な対応や細かいトラブルへの対応の蓄積で、いちばん大切にしなければならないことができないことが残念です。」との返答。先ほども述べたとおり、子どもたちの中には勉強に対して苦手意識などをもっている子もいるため、そのような子どもたちが「好き」や「やりたい」という気持ちになれるよう指導・支援することを最も大切にしたいことからの返答だと思いました。

今後も、子どもたちが「好きこそものの上手なれ」につながるように、そして、タブレットも円滑に活用できるよう研究を続けていこうと考えています。引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。